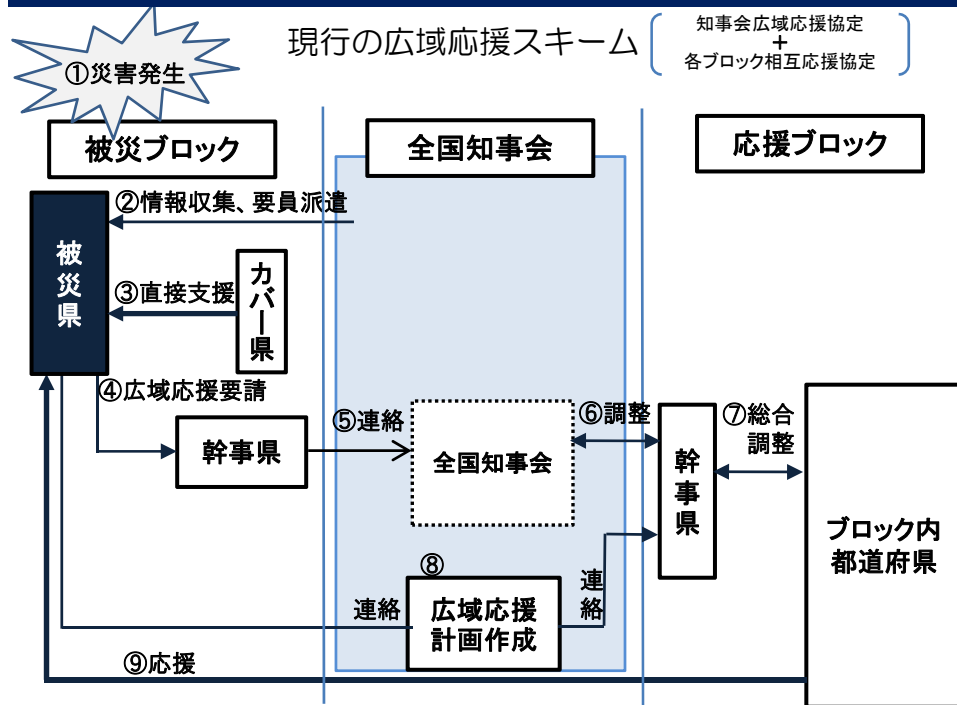


現行の広域応援スキームの問題点と今後の検討課題（東日本大震災の経験を踏まえて）



現行スキームの問題点

- ① 被災県
 - ・ 発災時は目前の対応に追われ、必要な支援の正確な把握、対外的な応援の調整を行うことができなかった。
- ② 被災ブロック
 - ・ ブロック内で応援調整する応援県（カバー県）と、対外的な応援要請を行う幹事県が異なり、役割分担が不明確であった。
 - ・ ブロック内の複数県が同時に被災し、幹事県で全体調整することが困難だった。
- ③ 全国知事会
 - ・ 発災時に国、各都道府県等から情報提供や支援要請が一気に知事会事務局に寄せられ、調整機能が十分に果たせなくなった。
- ④ 広域応援スキームに対する認識が不十分だった。

※ カバー県：被災県の支援やブロック内の調整を行う。（通常は被災県に隣接する県）
幹事県：ブロックを越えた応援要請を行う。（通常はブロックの会長県）

今後の検討課題

幹事県とカバー県の役割分担の検討

- ・ カバー県等が広域応援の窓口となり、情報収集や他県、他ブロック等との調整を行う仕組みを検討する必要がある。

全国知事会の役割分担の検討

- ・ 知事会は広域応援に係る情報の集約、国との連絡調整など全体の調整機能の強化について検討する必要がある。